

## ホントにこわい窒息住宅の話

これまで、住まいの不具合をたくさん見てきましたが、意外にもその多くが比較的新しい住宅です。入居後、10年(平成8年建築)から5年(平成13年)位がとても多いように思います。

同じような不具合の相談が、たて続けにありました。Aさん宅が平成10年、Bさん宅が平成11年に建てられています。ともに結露の悩みでした。双方ともに、高断熱・高气密・樹脂サッシ・24時間換気・FF暖房仕様です。

Aさん宅は、冬期間にはサッシや壁にしたたるほど結露が生じるといいます。Bさん宅では、小屋裏一面にカビが生え、天井には結露のにじみ跡がたくさんあります。これらの原因を突き止めるには、高断熱・高气密住宅が確実に機能するための条件を一つひとつ検証していくことになります。

調査の結果、双方とも「24時間換気が機能していない」「小屋裏換気が機能していない」ことがわかりました。ある部屋には外気を取り入れる給気口はあるのですが、排気ファンがありません。別の部屋では、排気ファンはあるのですが給気口がありませんでした。ダイニングキッチンのレンジフードは音が響くだけで煙を排出していません。驚いたことにここにも給気口がありませんでした。

また小屋裏は、空気を排出するための手立てがないので、外気が入ってきます。空気を動かすには、入り口と出口が

必要だという理屈が理解されていないのでしょうか。信じられないことですが、こんな単純な施工ミスが原因だったのです。

両方のお宅で、家族に吐き気・めまい・頭痛・目の痛みがあり、シックハウス症候群の疑いがありました。ホルムアルデヒド測定の結果、WHOと厚生労働省の室内環境指針である0.08ppmを上回る検知結果が出ています。

高气密住宅は、家全体がビニールで密閉されている状態です。一步まちがえば「窒息住宅」になります。窒息状態では空気がよどみ、家が蒸れて木は腐ります。結露が発生し、カビ・ダニが繁殖します。建材・家具・塗料・接着剤から発散する有害な揮発性有機化合物が充満し、シックハウス症候群を引き起こしてしまいます。

窒息住宅を防ぐには、床下・壁の中・小屋裏の空気が常に流れるようにしなければなりません。室内も確実な換気が常に行われるようにしなければなりません。ひと昔前の、隙間の多い住宅にはなかった考え方です。窒息を防ぐために、精密機械のような仕掛けが、今の住宅には不可欠なのです。

